

精神医療センター開設 6ヶ月の現状

本誌かざぐるま3月号でお知らせした通り、市立札幌病院静療院の成人部閉鎖に伴い、平成24年4月に市立札幌病院内に精神医療センターが開設されました。今回は、開設後半年間の稼働状況につきお知らせ致します。

あらためて当精神医療センターの概要について簡単にご説明致します。人員配置は常勤精神科医8名（うち精神保健指定医4名、後期研修医2名）、看護師33名、精神保健福祉士2名、臨床心理士非常勤1名で、病床は全38床（うち合併症ユニット8床と保護室5床を含む個室22床）、10対1看護体制の閉鎖病棟となっています。平成25年度から、精神科救急合併症入院料の算定を目指し、現在諸条件をクリアすべく努力しているところです。

平成24年4月から9月までの半年間で、計125名の入院患者さんを受け入れましたが、そのうち76名、61%が身体合併症を有する患者さんでした。身体合併症の内訳は、薬物中毒やせん妄を含む意識障害37%、外傷等による手術目的11%、イレウスなどの急性腹症11%、悪性腫瘍9%、糖尿病や内分泌疾患8%、膠原病5%、その他19%でした（図）。また、全入院のうち25%が自殺企図によるものでした。

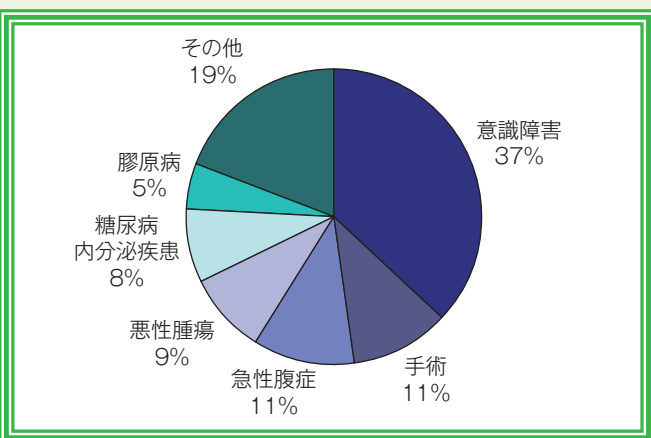


図 身体合併症を伴う入院患者の内訳



前列右より：高橋副部長、安田部長、上村副医長
後列右より：白井医師、岩田医師、若槻医師、菊地医師、鹿野医師

入院患者さんの由来は、院外からの依頼が56%、院内（リエゾン関連）が29%、当科外来が15%です。しかし、残念ながら院外からの依頼に全て応じられている訳ではありません。実は緊急入院の依頼総数は半年間で104件ありましたが、うち実際に受諾でき当センターに入院となった方は51件ですから、およそ49%となります。厳密に言うと、54%に受入を表明し、19%が保留、27%にお断りしていますが、途中キャンセルが生じて実際の受入率が49%になったということです。お断りせざるを得ないケースの大部分が病床（特に個室や保護室）の空き状況に起因するため、いかに受諾率を上げられるかが今後の課題です。このためには、現在の平均在院日数48.5日をもう少し短縮する必要があります。外来・入院ともに、連携してくださっている医療機関との関係を密にし、相互の協力体制をより強固なものにしていきたいと考えています。

当院は、急性期の精神症状ならびに身体合併症の入院治療を主体とする機関ですので、外来業務は最小限に絞っています。今後も関係医療機関のさらなる御協力をお願い申し上げる次第です。一方個人的には、アクティブで疲れを知らない若い先生方から刺激を受けつつ、新たな経験を積むことができることを大変幸せに感じております。救命救急センターを初めとする他診療科の医師・スタッフの熱い協力のもと、市民に信頼されるセンターにしていきたいと思っております。

